

井戸端だより

第94号

発行日 2016年6月21日

発行 ぐらしの学習会

目次

- ・ 4月例会報告 1
- ・ 5月例会報告 4
- ・ 特別展「世界の昆虫と愛媛の化石展」訪問 7
- ・ ジャコウアゲハ 2016年春 8
- ・ 「高齢者の主張」発表原稿 2016. 3. 27
今、知ろうとすること、声をあげることの大事さ 9
- ・ 短歌十首 11
- ・ 伊能忠敬記念館を訪ねて 12
- ・ 行きは良いよ帰りは怖い 13
- ・ 京都の地に触発されて 17
- ・ うその様な本当のはなし 19
- ・ 雑感 21
- ・ 新聞記事 25



4月例会報告

4月4日(月)桜の時期でもあるし活動メンバーS.Kさんおゆめの今治市伯方にある『開山公園』へ出かける予定だったがあいにくの雨模様。そのため、9時出発の予定を変更し10時にH宅へ集合し話し合うことになった。結果、その時間の頃には雨も止み『開山公園』は又の機会とし、今治方面へメンバー4名で出かけることにした。

まず、石手川ダムを越えR317を玉川ダムを目指す。この時期どこを走っても車窓には桜色が私たちの目を楽しませてくれる。水ヶ峠トンネルを抜けると霧が出て乳白色の世界に。暫く進むと序々に薄まり一安心する。ダムの手前にあるボート置き場の道路際に駐車をし、水辺へ降りてみた。たくさんのレース仕様手こぎボートが何段にも重ねて置かれている。こんなに近くで見ることがなかったのでサイズ感に驚く。長さの割に幅が狭い。この細長いボートに乗り込む事さえ難しそう。バランスを取りながらオールを漕ぐチームメイトとの一体感が、映像などで見る速さにつながる事を知った。※来年のえひめ国体本番に向けてリハーサル大会が、国体と同じ会場で行われます。ボートは平成28年7月24日(日)開催。笑顔のえひめ5月号より※

車に戻り、この日の愛媛新聞の特集記事「えひめ 桜新聞」(3/29~4/2にかけて県内の名所33ヶ所を記者がカメラを手に取材した)をS.Kさんが持参していたので、この中から一か所チョイスすることに。今治市朝倉上の『無量寺』のシダレザクラを目指す。少し行った先では満開の桜がダム周辺を彩り、さくら祭りで賑わっていた。車のナビでは『無量寺』が出てこない。タブレットで検索し道案内をしてもらうことに。なかなか見つからず、結局、コンビニで尋ねる。教えてもらった通りに進むと『無量寺駐車場』の看板を見つける。側には朝倉南小学校があり、車を降り数分の場所に目的地に到着。

なかなか立派な寺院である。四国三十三観音霊場会 公式Web サイトでは※<23番、無量寺>山号=龍門山 宗派=真言宗醍醐派 開基=無量上人 本尊=阿弥陀如来(秘仏 聖徳太子の御作と伝えられる) 当山は、白鳳年間

齊明天皇伊予行幸の際お供の僧、無量上人により、浅地、車無寺（くるまんじ）の地に開創。開創当時は三論宗で、後、真言宗に改め今日に至る。当山二世 量上人は伊予の領主河野玉興公の御子で、その縁により、河野家の祈願寺となる。天正年間、実上人は、龍門山城主 武田信勝公の外護を得て当寺を現在の地に移転。又、上人は天正10年、龍門山城落城、信勝討死の時、その子、富若丸（当時16才）を寺に隠潜させ、約10年間養育し、ついに天領の大庄屋職に就かせる。代々の庄屋の記録は、現在、無量寺に残る。※と、ある。

「えひめ 桜新聞」によると、ここのシダレザクラは、樹齢約110年、高さは約10mあり、見上げると薄ピンク色の傘に覆われたようであり、枝振りが他のシダレザクラとは趣が違ふ感じがした。庭内には、二代目のシダレザクラも育てられていた。お寺の軒先には訪れた人々が撮影した桜の写真のファイルがたくさん置かれていた。その他にもたわわに咲いたボダイジュの黄色の花の写真も見応えのあるものであった。庭内には大木のボダイジュがあったので、桜と同様に撮影されたものだろう。

『無量寺』を後に昼食を取るため『タオル美術館』内にある中華料理店へ。シェフおすすめランチを注文。（春らしい色とりどりの野菜とエビの塩炒め鶏の甘酢あんかけ・イカの酢の物・たまごスープ・ごはん・杏仁豆腐）お喋りをしながらの楽しい一時を過ごした。その後、館内を見て回り一階の休憩スペースで次回の予定を話し合う。八幡浜市保内にある「近代化産業遺産」の街歩きをすることになった。

『タオル美術館』を後に、東温市方面へ。桜三里を東温市方面へ。桜三里というだけあって桜色が視界から無くなることはない。車中で『源太桜』の話が出て、4人とも今だ行ったことがない。車を降りて結構な時間歩く必要があるので二の足を踏んでしまっている。4/5の愛媛新聞に『源太桜』の写真が出ていて、江戸時代に松山藩士が囚人を使って旧街道沿いにエドヒガンを8240本を植樹。このうち、現存する2本が藩士の通称「源太」の名を取り、『源太桜』と呼ばれている。東温市指定天然記念物の桜三里最古の2本の桜

やはり愛でてみたいものである。

最後に、最近オープンした「スイーツパーク」へ。お菓子の製造工程を見学することができる。ここだけで購入できる材料にこだわったポエムの焼き上がりを待つ行列ができていた。私好みの物があればと探してみたが無かったので断念。「スイーツパーク」と銘打つからには全種類の商品が並んでいるものだと思っていたので残念であった。甘い匂いに見送られ帰路に就いた。

結局、16時頃までいろいろな場所を尋ね歩く例会となった。長時間、車を走らせてくれたHさんお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

(A. M)

今治市朝倉

無量寺

2016.4.4



玉川ダム湖畔
ポートが並ぶ



5月例会報告

5月17日（火）予定どおり八幡浜保内にある「えひめの近代化産業遺産」をめざし、快晴の下、会員5名で中央公民館を9時過ぎ車2台で出発した。

川内IC～大洲IC～R197を八幡浜方面へ。予定としては10:30「ほないまちなみミュージアム」を散策することになっていたのだが、天気もいいし、学習会としては、今だ伊方町を訪れていないこともあって、このまま伊方発電所「ビジターズハウス」の見学を急遽車中で決め「道の駅 きらら館」へ車を進めた。駐車をし、きらら館のエレベーターで「ビジターズハウス」への連絡通路のある3階へ。3年ほど前、別のグループと訪れた場所だったが、新たな気分で見学。シアターホールで3D立体映像を視聴、本館・原子力展示ホールには（原子燃料サイクル・原子炉格納容器・使用済燃料プール・タービン・発電機・中央制御室・そして発電所を支える強固な基礎岩盤「緑色片岩」）などが美しく展示されている。展示見学後4階の展望室へ。3基の原子力発電所を臨む。1977年運転開始の1号機はこの程廃炉が決まった。が、その後は……。1階の物産センターへ降りると12時近くになっていた。特産柑橘などを購入し保内方面へ。（この日の夕方のニュース番組で「きらら館」の情報コーナーがあり、新装された水槽・2階のバーチャル水族館などの紹介があった。子供連れには楽しい施設だったことに気づき複雑な気分になった。）

県内近代遺産の一つが「ほないまちなみミュージアム」として保存されている。※2005年の合併で八幡浜市となった旧保内町は明治から昭和初期の香りを今に伝える街。特に川之石地区は江戸後期から海運や紡績で栄え、1878（明治11）年には県内初の銀行が誕生し、1889（明治22）年に四国で初めて電灯がともった。銅山経営（川之石沖にある佐島にはかつて銅の製錬所があった）や紡績業（1889年宇和紡績として操業を開始し、白石紡績・東芥紡績などとして1960年の閉鎖まで地区の黄金期を支えた）で名をはせた白石和太郎が明治30年代に建築されたとされる木造瓦葺き二階建ての「旧白石和太郎洋館」前の無料駐車場に車を止め街歩きスタート。（2015年11月6日 愛媛新聞まるごとトピック 八幡浜編より）※

私たちも「旧白石和太郎洋館」前の無料駐車場から街歩きスタート。川之石ドレスメーカー女学院（愛称『ドレメ』後に専門学校に改称）の校舎としても使われた「旧白石和太郎洋館」のインターフォンを押すと管理人の方がおられて館内の案内をして頂けた。玄関の天井飾りには世界地図が描かれ、手の込んだ細工が建物全体に施されている。「ドレメ」時代の女生徒の写真や制作した洋服などレトロ感満載。洋館の窓の開閉は重りと滑車を利用した上下のスライド方式。鍵はネジ式で、昔のメーカーの物が今も使われている。（栄光・矢的を図案化されたものは建築当初に取り付けられた物らしい）昔の写真・陶器でできたドアノブ・銅の製錬時にでたカスには鉄が含まれていて普通のレンガより重い佐島レンガ（沖合の佐島には、かつて銅製錬所があり、製錬時に出るカスをカラミといいブロック状に固めレンガとして使われていた。今も歴史の語り部として地域に存在している）なども展示されている。また、沖合の佐島と地下トンネルで繋がっているのではないかと川之石ミステリーなども語られているようだ。一階で使われている机の中には、県内初の銀行で使用された物（天板の裏や足の部分には時代を現す紙のラベルが貼ってある）を歴史と共に大切にしていることに感心しきり。管理人の方の興味深い話にすっかり長居してしまった。

その後、赤レンガの小路を廻り、歩きと疲れた人は車で愛媛蚕種（旧日進館）国登録有形文化財へ。木造三階建ての堂々とした建物、明治17年蚕種製造会社として創業。現在も年数回作業をし「野村シルク博物館」へ納めているようだ。愛媛蚕種の前の伊予銀行川之石支店後ろにある「旧国立二十九銀行跡」と記した碑を見学、宮内川沿いに整備された「もっきんロード」方面へ。シンボリック存在の「旧東洋紡績赤レンガ倉庫」を横目にこのエリアの見所をマップに沿って見て歩いた。駐車場に戻ると既に14時近くになっていた。

昼食も未だ取っていないので道の駅「八幡浜みなと」へ。ランチラストオーダーが14時ではあったが、海鮮丼ならできるとの店のご厚意で遅い昼食を取る事ができた。鮮度の良い刺身がたっぷりのってとても美味しかった。食後、産直市場でそれぞれ買い物を済ませ、帰路に就いた。無事16時すぎ東温市に到着。運転をして下さったHさんTさんお疲れ様でした。（A.Ⅱ）

特別展「世界の昆虫と愛媛の化石展」訪問

添付の愛媛新聞での情報を知り、4月30日(土)メンバー4名で訪問することになった。93歳になられた楠先生の最後の企画展には、初日の朝一番にも関わらず、沢山の方が訪れている。会場には、今まで見ることのなかった貴重な楠先生ご自慢の宝物が所狭しと並んでいる。「ギネス大昆虫」と表示された大きな蝶(開張25cmのアレキサンドラトリパネアゲハのほか)・自然のものとは思えない金属光沢のある甲類の展示に、大人の見学者の目もキラキラと輝き見入っていた。瀬戸内海で見つかったナウマンゾウの化石に触れることができた(先生の許可を頂いて)男児の嬉しそうな表情に先生もニコニコ。印象的に瞬間だった。新聞記事の最後にも「生物の世界は多岐にわたり、変化に富んでいる。特に子供たちに喜んでもらい、少しでも自然に目を向けてくれればうれしい」と話されている。多くの見学者で展示室が混雑してきたので、先生との記念写真を撮らせて頂きお暇することに。「どうぞ、お疲れが出ません様に」と願いつつ。

この後、先生から以前先生と訪れた下伊台の薄墨桜で有名な「西法寺」の奥に、薄墨桜よりも花びらの大きな遅咲きの桜があることをお聞きしたので尋ねてみた。残念ながら見つかることはできなかったが、新緑のさわやかな空気が心地よく、リラックスタイムとなった。(A.M)

愛媛 女性 楽斤 隔週 2014.4.30 (隔日撮影可能)

80年以上にわたり国内外で収集した昆虫や化石を所蔵する松山市新石手の私設博物館・南日本自然史博物館で、29日から5月1日まで特別展「世界の昆虫と愛媛の化石展」が開かれる。自然探求に人生を注いだ前館長の楠博幸さん(93)にと

って9年ぶり、そして最後となる企画。「ぜひ多くの子どもたちに見てもらい、自然の素晴らしさや多様性を感じてほしい」と願いを込める。



「子どもたちに自然の素晴らしさを」と活動を続ける楠博幸さん(手前)と高橋さん。特別展では世界最大のチョウの標本などを展示する

自然探求 80年の軌跡

小学生の頃に昆虫採集 10回程度、昆虫会を企画 開催してきた。子どもも 回って昆虫や化石や野 ちなど多くが訪れたが、 31万点を収集してきた楠 さん。最近、旧県立博物館の学芸員や館長に依頼を 受けて、湯屋も自然の魅 力を伝えた。と活動を続け けた。

1998年、自宅に同 館をオープンし、豊富な 標本を入れ替えながら年 々、自分の手で特別展 を「と標本、標本を自ら 維持した高橋博幸さん(93) と協力し開催を実現し きた。

瀬戸内海で見つかった ナウマンゾウや松山県道 沿いには、現在では採集できな い品も並ぶ。標本や地区 標本を分け分りやす

昆虫や化石 31万点収集

「標本も石も筆力は衰 えてはいる。展示では、 与りわけチョウが好きな 標本のコレクションのアレ にも関わらず、25cmのアレ キサンドラトリパネアゲハ のほか、ヘラクレスオオカブト、自然のものとは 思えない金属光沢のある ナウマンゾウやカブトなど を紹介する。

瀬戸内海で見つかった ナウマンゾウや松山県道 沿いには、現在では採集できな い品も並ぶ。標本や地区 標本を分け分りやす

くす。

自然探求昆虫採集を している高橋さんは「父 が数年集めた標本のコレ クション。多様性を一番 分かりやすく教えてく れる昆虫を通じ、今後 も自然に触れてもらっ てほしい」と語り ます。

標本は「生物の世界 は多岐にわたり、変化に 富んでいる。特に子ども たちや大人にも、少 なく自然に目を向けて くれればうれしい」と力 を込めた。

開館は午前10時〜午後 5時。入館無料。問い合 わせは電話0908-822-0000 (0908-822-0000) (0908-822-0000)

(伊藤 隆)

ジャコウアゲハ 2016 春

5月中旬頃から、ジャコウアゲハの姿が全然見えなくなった。

4月9日、今年になって初めて庭に姿を現し、4月27日頃まで時折、数頭舞っているのを見かけ、今年も会えることが出来た、とワクワクした気分になっていた。

少し伸びた食草ウマノスズクサに卵を産み付け、今年もこれで安心と思っていたが、いつの間にか卵がなくなっている。成長するのはウマノスズクサのみ。葉っぱを食べた形跡もなく、可愛い花をつけ、アンテナの支線に絡まってドンドン伸びている。食べ物はたっぷりあるのに・・・。

食草を植えてもらっていたご近所や川内の人にも聞いてみたが、どこも同じような状態、蝶は見かけないと。

例年だと、この時期は、蛹で冬を過ごし、春先に羽化した春蝶が、卵～幼虫～蛹を経て夏蝶として飛び出す時期。

2007年に「ジャコウアゲハの舞う庭」を夢み、食草を植え、育て始めて今年で丸9年。5年程は春先から秋の終わりまで「蝶のくる庭」を楽しんでいた。その後は徐々に少なくなり今日に至っている。ジャコウアゲハに続いて他の蝶も蜜を吸いに来ることもあまりなくなった。

近くの田んぼは都市開発で区画整理され住宅地になった。自宅の近くに借りていた野菜や花を植えていた空き地・花木を植えていた団地の入口の空き地等も返上した。これも少なくなった原因の一つかと思う。体の動きが鈍くなり、痛くなり、思うように手入れが出来なくなり、仕方ないことと思う。

「井戸端だより」に2007年10月発行59号より観察日記?のようなものを書いてきた。残念でならない。

いいこともあった。3年ぶりに鳩が我が家の金木犀の垣根とベランダの物置の上に巣を作った。その内の一羽が巣立っていった。

我家に迷い込んできて家族同様になった猫の「ケン」今年で15年目に入った。元気で纏わりついている。

(S.K)

「今、知ろうとすること、声をあげることの大事さ」

あの東日本大震災と福島原発の重大事故から5年が経過しました。この3月は事故から5年ということで、新聞紙上には特集が多く組まれました。ただしそれも一時の事です。新聞の1面トップには事件や事故のことが次々と大きく報じられ、人々の間でも目の前の日常的な問題が優先されます。新聞紙上やマスコミ報道では、「復興」「帰還」「風評被害」という言葉があちこちで報じられています。「線量が下がっている」あるいは「安全性が確認された」という情報だけが一人歩きして、もう大丈夫だ、もう終わったものと考えている人も多いのではないかと思います。では、本当に原発事故は過去のものなのでしょうか。

いいえ、福島原発事故は、まだ終わっていません。むしろまだ私たち日本人全体に危険を及ぼす可能性があり、今も進行中です。「原子力非常事態宣言」は解除されていないのです。

事故を起こした福島第1原発の3基の原子炉は、溶けて圧力容器や格納容器を貫通して、核燃料がどこに位置しているか、再臨界が起こっているのか、この先その核燃料にさらなる大規模な危険はないのかまったく分かっていません。その爆発した原発からは、毎日多量の高濃度の放射性物質が空气中に今も放出され、日本の広範囲な地域を汚染し続けています。また高濃度に放射能で汚染された汚染水も、日々大量に垂れ流し状態で、太平洋に流れています。海の汚染による魚介類への影響は、今も、この先も、私たちの暮らしを脅かし続けます。放射能で汚染された食物も全国に拡散され、私たちも知らずに日常的に放射生物質が含まれた食品を食べ、内部被曝している危険性もあります。

事故以来、原発の影響を日々直接受け続けている人々も多く居ます。日本政府は、従来の放射線防護の年間1ミリシーベルトという基準を反古にし、年間20ミリシーベルトという暫定基準を適応しています。これにより環境省は、特定地域だけでも1ミリシーベルト以上汚染されている市町村の人々は700万人以上と認定しています。さらに従来の法律で放射線管理区域と指定されるようなあるいはそれ以上の高い放射能汚染地域で、今なお暮らしている人々がおおり、その数は福島県内外で数十万人にのぼっています。それにもかかわらず、日本政府は人々を避難させないどころかむしろ帰還を進めているという状態です。

「2015年8月31日現在、福島では、県内30万人の子どものうち、甲状腺ガンまたは疑いが138例見つかри、すでに104人が手術後、がんの診断確定となりました。これは従来の地域がん登録100万人あたり3人／年の数をはるかに上回ります」。放射能の人体に及ぼす影響は甲状腺がんだけではありません。チェルノブイ事故後のウクライナの数多くの専門家の研究によると、この25年間でがんだけでなく、心臓病、白内障、各種の免疫疾患、先天性異常など様々な病気の増加が報告されています。日本でも影響は、福島県だけにはとどまりません。今も今後も首都圏を含む東日本の広範囲に深刻な影響がでることが予想されています。

原発事故の影響は健康の問題だけではありません。福島の人々は、避難区域、避難準備区域、そして県外に避難した人々、それぞれが分断され、生活の基盤を根こそぎ失ってしまいました。それらの人々は、十分な補償も得られず、その少ない補償さえ打ち切られようとしています。互いのほんの少しの補償額の差から同じ被災者同士でいがみあう姿も見られ、人々の心もずたずたに引き裂かれています。先の見えない不安と絶望の中で、命を絶った人々も多く、また今を生きている人々にも未来のない暮らしが強いられています。

今、例に挙げた以外にも一般に知られていない問題が数多くあります。事故の原因もまだまだ解明されていません。また今行われている除染の実態と放射能のゴミの拡散の問題。原発現場で廃炉に向け作業している作業員の過酷な労働と被曝の実態。内部被曝の危険性と健康問題、原因究明が終わっていない時点で作られた新規制基準など、これらの多くがあたかも問題が解決されたごとく、安全であるかのように喧伝されています。

この現状の中で、今日本の原発が次々と再稼働されようとしています。ひとたび原発が事故を起こせば、日本はおろか世界に、人類の存亡にかかわる影響を及ぼしかねないことになる。そのことを福島原発事故で知った今、このまま原発をまた動かしても良いのでしょうか。

敗戦国としてよく引き合いに出されるドイツですが、あるときドイツ人の知り合いと第二次大戦の話になりました。日本が中国にしたことを、私が「私たちは、学校で教えられなかったから知らないのでは」と言うと、そのドイツ人は、「ほおー。教えられなかった？ ドイツだって親の世代はナチスのことを言いたがらなかったよ。それは自分で調べるものでしょ！」と言われました。またドイツのフライブルクの人々が1970年代に原発立地を跳ね返した時の記録を読むと、多くの人が、「あの戦争の時に声を挙げなかった。だから今声を上げるんだ。同じ過ちをしたくないから」と口々に言っていま

した。そうです。私たちは、戦争の事も、またこの福島原発の事故のことも、「誰も教えてくれなかったから」、「マスコミでは報道されていないから」と、この今起こっている真実の姿を知らないままで済みますのでしょうか。同じ過ちを起こしていいのでしょうか。まず、今起こっていることを自分で知ろうとすること、そして声を挙げること。それは勇気がいることです。また面倒がってはいできないことです、私たちひとりひとりが今しなければと思います。子どもたちの未来のために。ご一緒に声を挙げませんか。

M. M

短歌十首

- 驚きの花茎を伸ばしアマリス深紅の花は辺りを威嚇
- 山ノ田に水が張られしその上を早苗蜻蛉が爽やかに飛ぶ
- 南天の白い花びら吹雪なり蜘蛛の巣に付き在り処頭わに
- 四月過ぎ鈴蘭挿して玄関にその香広がり居間廊下まで
- 瓦置く家無くなりて巣造りができぬ雀ら雛を守れず
- 今朝小雨雀の鳴きて雛を呼び家の周りをすがら廻るか
- 朱つよきヒラドツツジは花卉大急ぎ渡りて黒き蝶飛ぶ
- 芋の葉の雨だれ流れ球ならず匍匐前進サラリと落つる
- 藤の花揺るる花房蜜蜂も熊蜂も来よ雨の来ぬまに
- 仏桑華小ぶりに咲きて部屋の中温度不足に少しく拗ねる

A・N

伊能忠敬記念館を訪ねて

6月4日、5日と、夫婦で息子が住む千葉県成田市を訪れる機会があった

行く前、息子のお嫁さんから、どこか行きたいところがあったら教えてほしいといわれていたので、夫に聞いてみたら、一か所だけ行ってみたいところがあるという。それが伊能忠敬記念館だった。

伊能忠敬というと、あの日本全国を測量して歩き、わが国最初の日本地図を作り上げた人物だが、彼の記念館が成田市の比較的近くにあるということ、私自身は全く知らなかった。しかし、伊能忠敬の作った実測地図が、現在の日本地図にきわめて近い優れたものだったということは認識していたので、もし行けるものならぜひ行ってみたいと思った。

5日朝から息子の運転で香取市佐原にある伊能忠敬記念館を目指した。車で30分余りかかっただろうか。町並み観光駐車場と表示のある所に車を止めて、歩くことにした。

記念館はすぐのところにあった。中に入ると、忠敬の人生を年代順に追った展示が始まった。忠敬は1745年に現在の九十九里町に生まれ、17歳で佐原の伊能家の婿養子となっている。36歳で名主となり、49歳で隠居、50歳で東京の天文方高橋至高（よしとき）に入門して、55歳から毎年測量の旅に出かけた。59歳の時からやっと幕府に正式に登用されて、それ以降も71歳まで測量に出かけ、73歳で亡くなった。大日本沿岸輿地全図（東京国立博物館蔵）が完成したのは没後3年だという。測量ごとに作った地図や絵図など膨大な数の資料のうち、この記念館所蔵のものも多くあり、伊能忠敬関係資料2345点は平成22年国宝に指定されたということだった。その中には伊能図や測量器具もあり、とても興味深いものだった。

また、伊能家に婿養子に入ってから隠居するまで、家業を立て直し、さらに3倍の財産にした彼の商売の才覚、50歳になってから20歳も年下の高橋至高に弟子入りして学び、師の要請に私財を投じて応え、早世した師を生涯敬い続けた人間的な魅力、幕府に正式に登用されるまでの測量の大変な苦勞など、人間伊能忠敬には大いに魅せられた。

記念館の近くは忠敬をはぐくんだ佐原（江戸時代から利根川水運の中継港として発展した商人の町）の町並みが続いていた。小野川に面して伊能忠敬の旧宅があり、これは国の「史跡」に指定されている。酒屋を営んでいた伊能家の店舗、炊事場、書院、土蔵からなっている。これもなかなかの見ものだった。小野川に沿って両側に江戸・明治・

大正・昭和期の町屋・土蔵・レンガ造りなどの趣のある建物が数多く残っていて、これらは関東で初めての国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されているとのことだった。小野川には観光用の小舟が時折行き来している。川沿いを少し散策してみたが、川には柳がしだれていて、日本の情緒を感じることができる。

お昼はこの街並みの建物の一つ、外からは全くそれとはわからないフランス料理の店で、とてもおいしい料理をいただいた。その日は満席で予約以外お断りということだったが、たまたま少し前にお嫁さんのお母さんがお友達とここに来ていて、このレストランは予約があった方がいいと聞いていたお嫁さんが予約してくれたおかげである。

心もおなかも満たされて、戻った駐車場（70台）は満車だった。休日で多くの人が詰めかけたためだろう。私の中では伊能忠敬記念館とその周辺の町並みは皆にお勧めしたい観光スポットとなった。（T・H）

『行きは良いよい、帰りは怖い』

桜の花だよりが聞こえる頃、2年ぶりに上京しました。今回の楽しみは孫のバレエの発表会と93才になるMさんに会うことでした。Mさんは実家の関わりで親しくしており、90才になられた時に石鎚の山・皿ヶ峰のお皿・私の姿・梅津寺の広い家・酒だる村の水の流れる音が聞きたいと、東京から1人大きなカバンを持って来られました。その中には「雛飾る 心やさしさ もどりける」と折り紙でお人形を作ってハガキに貼ったものや、お手玉にタビの小はぜを入れて鈴のような音の出る物など。今でも老人ホームに配って喜ばれているようです。

東京へ着いた翌日、元気で再会できた喜びを分かち合い、お茶に食事におしゃべりと楽しかったこと。彼女曰く。「日本の行き先は？と考えるのはもう無用かな……。このところ、テレビ・新聞でも介護を受けている人のことばかり取り上げて、元気で自力で頑張っている老人の事など忘れられている。私は延命治療はしない。老衰で骨皮になって逝くより、丸くふっくら肉のついた顔で終わりたいと願っている。介護認定は受けない。老人ホームで風船遊びや歌を唄って何になるの。そのような経費を若い世代の人達

に廻したらよい」等々。93才にして足腰に不安はないという彼女の心身共に自立した生き方に圧倒されました。私も良き先輩を見習って、残された人生を心して過ごさねばと思いました。

「この次また会えるかは不明だけど、今日は貴女に沢山聞いてもらえたから胸の悪玉が消えました。ありがとう」と言ってプラットホームに消えて行きました。

翌日は孫のバレエの発表会を見に行きました。場所は昭和女子大学人見記念講堂でした。このホールは定員 2008 人で音響効果のすばらしさには定評があります。学内使用が多くを占めていますが、空き状況によっては学外にも貸し出しを行っています。

孫は第1部で「くるみ割り人形」を踊りました。小さい子たちが一生懸命踊る姿は、それだけで頬がゆるみます。この発表会に向けて注いだ情熱と努力は、何らかの形となって身についたとは思いますが、花束をもらえない子もいるという事を考えると複雑な気持ちでした。

しかし第3部のゲストの方々による「眠れる森の美女」は躍動感あふれるもので、舞台を豪華に彩りました。美しく踊るだけでなく、踊ることに対する真摯な姿勢を間近で見て、舞台に吸い込まれていくような感動を覚えました。本物を見る事の価値を改めて感じました。

3日目は近くの「五島美術館」へ行きました。6ヶ月前に京都国立博物館へ琳派誕生400年を記念した展覧会を見に行った時は入り口まで長蛇の列でしたが、五島美術館はゆっくり鑑賞する事ができました。入館するとすぐ右側に「愛染明王座像^{あいぜんみょうおうざざう}」が出迎えてくれます。この像は密教の神で、愛欲などの迷いがそのまま悟りにつながることを示す。外見は憤怒^{かんね}の形をとるが、内面は愛をもって衆生^{じゆうじやう}を解脱^{げだつ}（輪廻^{りんわ}を脱し、悟りを得ること）に導くとされています。

更に奥に進むと「中国陶芸展」が催され、60点に及ぶ出品があり、時代順に展示され、各々の作品解説・概要紹介があり、分かり易く鑑賞の手引きとなりました。

- ①（白磁弁口水注）唐時代・7世紀
- ②（青磁鳳凰耳瓶）南宋時代・13世紀のもの・龍泉窯で重要文化財
- ③（青花密柑形水指）明の時代・17世紀・景德鎮窯・祥瑞
- ④（黒釉木の葉文碗）南宋時代・12～13世紀・重要美術品

特に目に止まったのは④の黒の葉文碗で、字の如く黒茶碗の中に細かい葉脈がくつき

りと浮かんでいる様は真に見事という他はなく、じっと眺めていると、これで一服いただき至福の時を過ごせたらと、かなわぬ夢をみさせてもらいました。

展示室2では「中国の古鏡展」が催されていました。

37品目展示されており、中でも

（神人車馬画像鏡）後漢時代・2世紀・重要美術品・中国浙江省・紹興出土

（神人龍虎画像鏡）六朝（宋）時代・5世紀・京都市松尾鏡塚出土

（龍虎座二神四獣画像鏡）三国（魏）時代・3世紀・奈良県旧帯解村古墳出土
いずれも構図の大胆さ、躍動性、独創性に富んだ古鏡でした。

今日は時空を超えたすばらしい作品を見ることができ大満足でした。

明日は愛媛に帰るという前日、娘の家から歩いて行ける所に江利チエミのお墓があるのでお参りしました。『思い出のテネシーワルツ』と刻まれた石碑を前に、江利チエミの立像が建立されていました。夫であった高倉健の屋敷が近くにあり、よくお参りされたそうです。彼女も安らかに眠れたことでしょう。

それから孫達（小1年・小4年）を連れて公園に行きサッカーをして遊びました。私のボールが1番強く的確に飛ぶので、悦に入って片足をボールの上に置き長友選手のマネをしていると、バランスを崩し転倒して「第二腰椎椎体骨折」で入院となりました。この病院の敷地は昔、森だったので建屋の周囲はそのまま森を残しているので照葉樹も多く、窓から見える富士山や小鳥たちのさえずりに酒だる村の奥山のようななと思いました。

主治医も遅くなくても必ず顔を見せて下さり、私の希望する治療をして下さいました。骨密度が同年齢の人と比較すると120、若い人と比べても92と多いので痛み止めだけで、他の薬は飲まなくても良いでしょう。どんな薬でも副作用がありますからと言って下さいました。日常何の薬も飲まず過ごしている私にとってはうれしい言葉でした。

又、隣のベッドの方が山登りや俳句をなさる方で話が合い、入院生活をパワフルにして下さいました。声が大きいせいか「貴女のパワーはどこから来るの」と問われたので「お山でサルやイノシシと生活してたからでしょう」と言うとケゲンな顔をしたので、「えひめ酒だる村という処で、釣った魚を炭火で焼いたり湧き水でソーメン流しをしていたの」と言うと、スマートフォンで「えひめ酒だる村」を探し出されたのです。閉店して10年以上たっていますから私自身驚きました。「近くまで行ったので酒だる村はど

うなってるかなと行ってみたら、店を閉じて草が茂り子供の声も聞こえないが、昔のままの自然が残っていた」とか……。誰が書いて下さったのでしょうか。今でも酒だる村を愛して下さってると思うと心苦しいです。

もうひとつ入院したおかげで、Hさんとの久しぶりの再会が実現しました。Hさんとは暮らしの学習会でお会いする前に知人になっていました。一人娘が魚釣りに来て池に落ち、私の娘の子供の頃の服を着せてあげたのが話すきっかけでした。

以前に羽田空港でバッテリー会い、松山空港までご一緒して迎えの車で酒だる村まで行き、魚釣りやジャガイモ掘りをして自然を満喫して帰られました。今度は東京の自宅へ寄ってと言われていましたので、声だけ聞こうとTELすると「すぐ行く行く」と来てくれました。玉川病院に着いたらTELくれるだろうと待っていましたが、受付でストップがかかっていました。外国出身であり私の名前をフルネームで言うことができず、名字は言えるのに名前が出てこない。そこへ私からTELが入りOKが出たとか。テロ対策で警備員が病院内をウロウロしている時代だから、きちんと確認しなければいけないのでしょうか。今は東京近辺に住んでおり、声を聞いた途端に会いたくなって来たとの事。

家族全員日本に帰化し、一人娘は政府機関に勤め始めて3年になりました。彼らの未来が日本社会の一隅を照らすことは間違いありません。この家族に幸多かれと願ってエレベーターの所まで送って行きました。

さて「行きは良いよい、帰りは怖い」で20日間の入院生活の後、退院となりました。羽田空港～松山空港どちらも障害者にやさしい（車イスのサービス・駐車場等）システムになっているので心配した痛みも少なく、娘に付き添われて無事帰宅しました。年甲斐もなく皆に迷惑をかけましたが、得る事も多くありました。全てに感謝の気持ちです。

現在はリハビリ総合実施計画にもとづいて、日常生活の自立に向けて頑張っております。皆さんも体操・散歩・バランスの取れた食事を心がけ、特に（いも・豆・葉っぱ）を欠かさず食べて、自分の体は自分で守りましょう。

山鳩の 水つえばむや 風光る

母の香や 術後のあとの春ショール

平成28年5月記 S. M

京都の地に触発されて

「源氏物語」に長く親しみ、数多の注解、著述を存分にお読みの方には、この雑文はもううんざりする他何ものでもありません。私のように京都に来て、七十も過ぎやっと「源氏」を開いてみたような者には、今更何ら語れるようなことは皆無である。街中には「紫式部ゆかりの地」と諸所に詳細な説明の立札が数知れない。書店古書店各図書館の書架は、それはもう夥しい専門研究家諸士のご立派な書物がびっしりと。

紫式部は千年にわたり、世界の多くの国々で読み解かれて尽きぬものがある。

光源氏という理想的な男性を主人公に、親子夫婦恋人友人身分という位階等々、種々の人間関係の中で、愛憎、敵対、相克、野心、欲望等が実的に的確に描かれ、平安の宮廷の生活と人間模様が綿々と繰り広げられる。その展開は流れるが如く繰り出され、全54帖、70余年にわたる長編物語は、他の追隨を許さない。強調すべきは、その展開法である。作者の思うがままの進行ではなく、ある一つの出来事が起ることによって、他の事が自然に呼び起こされると言うように、仕組まれている。その巧みさは見事であり、正しく天与の才と言う他ないのである。又、ひとりの人物の描写も、この女流作家の秀でた才能がうかがわれる。その人物の話しぶり、詠む和歌、衣装、住まいまで詳細に描かれ、目の前に存在するかの様である。そこより染色工芸等諸分野の研究発展の基となったのである。かようなことは世界の文芸に類を見ないことであると。宮廷生活をおりなす自然描写もすぐれ、四季のおりなす風景と登場人物が、うまくとけ合い、読者の想像を引き出すに余りある。源氏が営んだ邸宅も四季の部屋部屋、そこに住ませた女性達が、その名に示すようにそぐわしい趣を有しているのである。

「源氏物語」の中には七九五首の和歌がおり込まれているが、これらの歌が先にあって、この後にも先にもない本格小説が生まれたのだそうであるが、その構想たるや壮大にして、綿密、適確なることはただならぬ才であり、宮廷に仕えかつ教授しつつ、式部という女性の比類のなさを表して尽きない。ユネスコで選定した世界五大文豪の一人として、紫式部が掲げられていることを、日本人は更に深く覚えねばならないと思う。その全巻より、にじみ出るものは、もののあわれであると言われる。あわれである。平家物語が諸行無常であるように。そこにはある重苦しい空気がただよう。決して明るい浮き立つものではない。何と多くの登場人物が、出家

を志しそうしていることか。主人公もしかり、作者式部も又しかり。四十数歳の生涯に唯一この物語を書き残した紫式部の作家としての姿勢を「蛩」の巻で次の様に述べている。「物語は、現実のありのままを書いたものではないが、世間の人々のありさまで、そのままに見過ごすがしのびないことを、後の世に伝えようとして言い出したもので、ここには真実が書かれているのです。よいことを言いたい時には、よいことばかり言い出して誇張しますし、悪いことで、ありそうにもない珍しいことを、書きつらねたりもしますけれど、みんなこの世のことなのです」と、源氏の口を借りて言っている。真に「源氏物語」は、一大虚構である。又同時に、人の世の真実を描いたものであり、平安の時代の世の姿や、人の心をありありと描いて見せた傑作なのである。ダンテの「神曲」より 300 年、シェクスピアの作品より 600 年も前に、この日本の一女性の手により、古典の中の古典が著されていたのである。

実は紫式部は、「作りもの」、うそを書いたということで、地獄に落とされたことになっていた。そこを何百年か後、一僧侶により、供養堂が、千本閻魔堂内に建てられ、極楽に引き上げられたことになっている。紫式部の墓については、観光ガイドに載せられていますが、本当の処は、もはや分からぬ古えのこととなっています。私如きがどう探りようもないのです。お蔭で小野篁、小野の家系、郷について、沢山のお話したいことがなお頭に一杯です。

M. D

うその様な本当のはなし

私は昭和九年十月十三日生まれ、もうすぐ八十二歳になる人生、いろいろな思い出が渦巻く様に出て来る。先ず母の話では、生まれ出た時に臍緒を首に巻き泣かなかったそうだ。産婆さんの手早い機転で、紫色の肌はピンク色に変わり元気よく泣いてほっとした喜びが忘れられないとよく話してくれた。本当なら死んどったから元気なんだそうだ。二女で女の子続きだったが、父親が懸命に考えて付けた名前が「節子」と書いて「さだ子」。今迄に学校でも友達にも銀行でも問い直される。

父親の話は奥が深く、大正皇后のお名前からもらったという。その理由は、東京大震災の時に、家を失い親を亡くした子に、怪我をした人々に、家族の様に手当をし優しく世話した話が世に知れ渡ったという。私と同じ様な名前が時々見当たる。男性のアナウンサーにも「節夫」「さだお」さんがおられる。どの親も、この子に優しい子に育てて欲しい、福祉的な考えを持つ人間にと願っての名前だったそうだ。父親の理想とした人物になったとは思えないが、弱い人に思いやりを持つようにしている。私は自分の名前が嫌いで、節子のま々が良かったと常に思っていた。それは友達から「サーちゃん」と呼ばれ、中学の英語の先生には「サーチーン13」の渾名を付けられ恥ずかしかった思い出もある。

昭和二十年六月、太平洋戦争で私達家族の住んでいた松山が大空襲に遭い、家が焼け住む場も食べ物も無く、父親の考えで祖母の住む北条に住むことになった。この時、六人の子供と両親で八人が同居する事になり、祖母にとっては、嵐が吹き荒れる様な日々が始まったと思う。そんな時母四十歳、父五十歳で七人目が生まれる事になった。

祖母は六人の子供が朝から晩迄、あばれ回りその喧々しさに頭を悩ましていた時にまた一人子供が生まれるとは耐えられなかったのだろう。「いいかげんにして」と母親のお産に賛成出来ず「手伝いも出来ん」と、今では考えられない嫁と姑の戦いである。

ある日の夕方、母が三歳の弟を連れて銭湯に行くから一緒に行つてと言うので、大きいお腹の母をかばう様にして三百メートル程の銭湯へ行く途中で、母が破水して困ってしまい、もう帰ろうと引き返した。そこから私と母のお産物語が始まる。中の間に布団を敷き直ぐに産婆さんと呼ばれに行き、かなりの年令のおばさんを迎えた。真白い割烹着を着て黒い鞆を持ったしっかりしたおばさんは、すべてを察して私に次々と命令をし、私が手伝い人となった。先ず、かまどで湯を沸かすこと、釜

に一杯の水を入れ、薪に紙くずと小さい木で火を付け、ひゅう気竹でふうふうと風を吹きつけるとやっと火が燃え始めた。それから部屋に行くと産婆さんが、母が苦しんでいるのを背中をさすりながら、あなたは部屋の外で待っていてと言われた。二月の寒い夜中のこと、寒さも感じることなく母の苦しみと一緒に、相当な痛みの声を同じに味わいながら一時間位が経ったとき、やっと「オギャー」の泣き声が聞けた。体の力が抜ける位ほっとしたのを覚えている。私十四歳の中学二年生の経験である。直ぐに盥に湯と水を入れちょうどよい温度にして、母を見ると、顔は青く息もたえだえの様な感じであった。産婆さんは、お米を一つまみ持って来てというので大急ぎで米びつから米を握り持って来ると、お母さんの口に少し入れてと言われるままにすると母は米を力を入れて噛むことが出来、力を取り戻した様だった。栄養不足の中で生まれた赤ん坊は、やせて小さかったが、たらいの中で気持ちよさそうに、もみじの様な手と足を伸ばしたり縮めたりして、生まれ出た嬉しさを、母、産婆さん、私と三人で味わったひと時だった。

それから父親が起きてきて「節子はよく頑張ったから、おまえの好きな名前を付けてよい」との事、喜んだ私は、友人に「節子さんという美人で頭も良いスタイルもよい人がいて、憧れていたので「せつ子」にして」と言うと、「節分の日に生まれたことだしよかろう」と決まったが、その妹が六十七歳、元気で一家の主婦で頑張っているが、背は低く顔も頭もまあまあで、私の憧れた人程にはならなかったし、五人の姉妹の中に節子、せつ子とまぎらわしい名前になり、今も責任を感じているが、代をまたぎ、妹の娘が、先日縁に恵まれ結婚した。美人でスタイルもよく頭も良い三拍子揃った女性となり、お相手の男性に気に入られ、理想の家庭を築こうと二人で努力している。

人間の一生も不思議なもので、どこかで苦勞すれば、それが幸せに継がり、夢を持って生活していれば必ず適えられるものである。

Sa. K

雑感

小隼雨に映える紫陽花が街を彩っています。

我家の周りでは昨年に比べ今年は少しホタルが増えました。三年前、水路補修でコンクリートの U 字溝が埋め込まれ、昨年までは工事を免れた家の裏でしかホタルを見ることは出来ませんでした。今年は家の前でもフワリフワリと飛ぶ姿を楽しむことが出来る様になりました。近所の方から補修後の水路にカワニナが増えたと教えて頂きました。覗き込むと、壁面の水際にカワニナがびっしりと付いています。

補修前は水路から川へ、川から水路へと飛び交うホタルたちを眺めながら庭でバーベキューを楽しんだものでした。来年在楽しみです。

そんなある日の夕方、水路で元気に泳ぐ小魚の群を見たとき夫が興奮していました。我が家が綾に移住した当時(2010年)は沢山の小魚の姿が見られましたが、補修後は見ることは有りませんでした。

水路壁面には苔や草が生えてきています。少し自然に近づいたのでしょうか。小さな命の頑張りを目の当たりにする日々です。

4月に発生した一連の熊本地震。複雑な地溝帯と活断層が引き起こした異例の地震だと言われています。最初の震度7から二か月。漸く一部の方の仮設住宅への入居が始まりました。脱線した新幹線も、通行止めになっていた自動車道もとつくに復旧しましたが、一人一人の生活はまだまだ厳しい状況が続いています。南阿蘇鉄道高森線はかつての高千穂鉄道のように廃止になってしまうのかもしれませんが。日々の生活の足である公共の交通機関を失うことは、私達の自立した生活を損なうことにつながります。誰もいつまでも運転できるわけではないのですから。そして車社会は自然をも破壊します。

高森町や山都町はキツリフネソウに出逢うため、何度か通った事が有ります。2011年には宮崎県の高瀬町で出逢うことが出来ました。毎年次々に、道路整備の為山肌が削られ、法面はコンクリートで固められ、キツリフネソウの自生地が無くなっていきました。高瀬ハイランドスキー場の方から高森峠九十九曲がり辺りならまだ残っている所があると教えて頂き出かけました。そこも2013年にはハガクツリフネしか見ることは叶いませんでした。

東温市の風穴の近くで当たり前のように出逢っていた、キツリフネソウ。今も咲いていてくれるのでしょうか。

石垣が崩れ無残な姿の熊本城。修復が急がれています。安全の為、立ち入り禁止にしたうえで、熊本城の修復より、生活再建を優先すべき、と思いました。でも、地震後初めて熊本城がライトアップされた時、避難所から涙ながらに喜んで見ておられる方達の姿に、私のように15回も引っ越しを繰り返した人間には測り知れない愛着が有ることも感じました。

6月1日、安倍首相の「新しい判断」で消費税引き上げの再延期が決まりました。

世界的に著名な経済学者を招いて消費税を上げるべき時期ではないとの意見を発信したり、伊勢志摩サミットでは強引とも思えるやり方で、ドイツやイギリスの首相の反対意見を押し切りリーマンショック直前の様なリスクが有ることを各国首脳に認めさせたり、着々と再延期の為の布石を敷いていることは誰の目にも明らかでした。

2014年の唐突な衆議院解散総選挙は消費税引き上げ延期に対する“国民の信を問う”ものだとのことでした。しかし、今回は衆議院を解散することはせず、予定されていた参議院選挙で“信を問う”のだと言います。衆議院の現議席数は確保しておきたいのでしょう。

勿論、今は消費税を10%に引き上げられる状態ではありません。まずはアベノミクスとやらが失敗したことを認めるべきです。そもそも、トリクルダウンという“富める者が富めばおのずと貧しい者にも富が滴り落ちる”という失礼極まりないともいえる経済理論を内閣・日銀が盲信したにも拘らず、大企業や一部富裕層はその富を内部留保や租税回避などで手放そうとはしていません。先進41か国中8番目という、子供の貧困格差が深刻さを如実に表しています。世界の食糧援助総量の倍以上の食品を廃棄しているというフードロス大国の日本で満身に食事をとることが出来ない子供たちの存在自体俄かには信じられませんし、食糧を粗末にすることも、辛い思いをする子供たちが大勢いることも恥ずかしいことです。この様な格差を是正するための「新しい判断」であれば歓迎します。

しかし、2012年以来の過去3回の選挙を振り返れば、常に選挙の時声高に訴えられた争点は“経済”でしたが、終わってみると思わず“寝耳に水！”と叫びたくなるようなことが次々に“決まっていきました。日銀総裁、内閣法制局長官そしてNHK会長を自分の考えと近い人物への交代。国家安全保障会議の成立、特定秘密保護法施行、武器輸出三原則に変わる防衛装備移転三原則の成立、そして昨年大勢の若者や一般市民、学者たちの反対を押し切って成立した安全保障関連法。すべて、選挙公約には書いてあったのだそうです。日々の生活に追われて、熟読できないのが悪いとでも言いたげです。

何が何でも改憲したい安倍首相。

自民党の日本国憲法改正草案。私のように立憲主義の何たるかを考える事すらなく、この歳までうかうかと過ごし、憲法と法律の違いもあやふやだった人間が普通の日本語とし

て読み進んだ時、なんら不都合はない様にも思えました。しかし、緊急事態条項の危うさや政治権力が国民を縛る条項が増えているとの指摘を知るにつけ、もっともっと一人一人が改憲草稿の意味するところを知らなければいけないと思う様になりました。その為にも、様々な意見を読み、聞く必要があります。しかし、今年4月20日国際NGO「国境なき記者団」が発表した、2016年の報道の自由度ランキングで日本は対象180国の内、昨年より11下げて72位でした。多くのメディアが自主規制し独立性を欠いていると指摘され、問題である、とされています。

2月3日の衆議院予算委員会で安倍首相は戦力の不保持を宣言した憲法9条2項の改憲に言及しています。「7割の憲法学者が自衛隊に対して違憲の疑いを持っている状況を無くすべきではないか」。災害の度にお世話になっている自衛隊。その働きには頭が下がりますし、感謝しています。しかし、自衛隊の身分を憲法に添うものにする事は、自民党の憲法改正草案にある自衛権の明記と国防軍の設置ではない筈です。世界中がイライラしている今だからこそ、9条の精神が世界中で共有されるものになって欲しいのです。そんな今、日本が9条を手放してはならないと思います。

選挙権が18歳に引き下げられて初めての国政選挙です。若者たちはどんな判断をするのでしょうか。

13歳4か月になった大五郎。私同様、動作を始める度にヨッコイショが増えました。つまりくことも増えました。杏は5歳4ヶ月。わがまま放題だった頃が嘘のように穏やかになりました。二匹は夫々にとても個性的です。二匹ともヨーグルトが大好き。私達が食べた後のカップを舐めるのをソフソフしながら待っています。大五郎は自分の食器にカップをおいてやると直ぐに舐め始めます。杏は、食器に食器以外の容器がのっていると近づくことが出来ません。カップを持っていてやらないとだめなのです。ブラッシングの時も、大五郎は長々と横たわり、私が右、左、反対、と声をかけるとゴロゴロと寝返りを打ち、されるがまま。その内ウトウト寝てしまいます。杏は、いつも、身体を固くして正座です。だからといってブラッシングが嫌いなわけでは無さそうです。移動の際も、障害になるものを根気よく取り除く大五郎、目の前に有るものがたとえ小さな箱であっても動けなくなる杏。愉快的コンビです。

近くでウグイスが歌っています。遠くから聞こえていたホトギスの声が日々近づいてきています。ウグイスに預けた我が子に自分の歌を教える為だ、とラジオで聴いたと夫が教えてくれました。我が子でない知りながらホトギスのヒナを育てるウグイス。気に掛けながらウグイスに我が子を託すホトギス。少し寂しくなりました。

オオルリでしょうかキビタキでしょうか、澄んだ美しい囀りが聞こえてきます。

河川敷では相変わらずセッカが忙しそうです。ある日、チャッチャッチャという馴染の声と共に、散歩していた私のすぐ近くのアザミの茂みに舞い降り潜り込みました。きっと少し離れた所に巣があるのでしょうか。巣を見たい気持ちを押さえて、そっと立ち去りました。近づくと巣を放棄することがあると聞いた事が有ります。

春の終りに見かけた仲睦まじいトビのカップル。久しぶりに出逢った姿は痩せこけ、羽には白いものが目立っていました。子育て中でしょうか。“ご苦労様”思わず声をかけました。

電線で、軒先や枝先で、虫をくわえたスズメ、シジュウカラ、モズたちがじっと佇みキョロキョロしている姿を見かけます。ヒナの待つ巣の在り処を知られない為に直接巣に戻らず、暫く様子を見ているのだと言います。親心に感動です。

土手の草刈りが始まりました。オオキンケイギクの駆除の為でしょうか。いつもは土手の外側だけですが、今年は内側の斜面まで土を掘り返しながら徹底的に行われました。セッカが潜り込んだ辺りの叢も無くなっていました。いかつい顔で美しい声を披露するホオジロがお気に入りのイタドリも刈り取られてしまいました。

昨日(6/13)、梅雨の晴れ間、カワラヒワの群が家の前の電線に並んでとまっていました。例年、土手の斜面に群れ、虫をあさり、土手を1列縦隊で歩く姿が見られますが、今年の土手は様子が違います。ちょっと心配です。

庭の至る所に顔を出したネジバナが日毎に色付き、地面近く沢山のシジミチョウが忙しそうです。調べても、調べても、どれも同じようにも、全て違うようにも見えます。それでも懲りずに撮っては調べる日々です。集まりに出かけた夫は、ムラサキツバメシジミを見せてもらったと言っていました。イチイガシの樹液にやって来たのだそうです。今年もイシガケチョウを始め様々なチョウがやって来ますが、北上途中のアサギマダラは立ち寄ってくれませんでした。毎年沢山のキアゲハの幼虫を育むフェネルに大勢のササグモが待ち構えています。そのためでしょう、今年はキアゲハがやってきません。

イトトンボが姿を消し、カワトンボ、サナエトンボ、シオカラトンボが増えました。池の傍のトクサの先ではシオカラトンボとショウジョウトンボが縄張り争いを繰り広げています。

6年振りに始まった歯科通い。抜歯が可能か否かを調べて頂くために受診した内科で、芋蔓式にどんどん検査が増え、あれこれ疑いのある病名を頂いてしまいました。大好きな海藻類を禁じられたことは少々辛いことですが、それでも、薬の服用も無く、経過観察で済んだことは幸いでした。私も今月で68歳。節制しながら楽しみたいと思っています。(K.O.)

「足元(愛媛県)の活断層は今」

愛媛新聞より

足元を知る

報道部

高田

未来

取材 最前線

中学2年生だった14歳の時、兵庫県宝塚市で阪神大震災に遭った。山麓の自宅は損壊を免れたが数百円以下の平野で倒壊した家屋を目の当たりにし「地球が怒ったんだ」と子ども心に自然の脅威が刻まれたのを思い出す。

あれから21年、同じ内陸

型の熊本地震が起きた。被災地からの報道を通して恐怖がよみがえる中、「足元」にある活断層を調べよう」と取材班に加わり、新居浜市の中央構造線断層帯・岡村断層を訪ねた。

の土手のように盛り上がり、航空写真では数キロにわたってほぼ一直線に延びる様子を確認できた。愛媛の活断層はどこにあるのか。とほどの専門家ではない限り地震の爪痕を見て取るのは難しいかもしれないが、自治体の防災マップや国土地理院の都市圏活断層図などで分かる場合もある。地域の地形を知ることも重要な防災対策だ。

史上初めて2度の震度7を熊本県益城(ましき)町で観測するなど、活断層の危険性を強く印象付けた熊本、大分両県で相次いでいる地震。その活断層の延長線上にある日本最大の活断層・中央構造線断層帯は愛媛県を東西に貫く。活断層は県内のどこにあり、どのようなリスクを内包しているのか。現地を訪ねる専門家に見解を聞いた。

「検証・中央構造線断層帯」

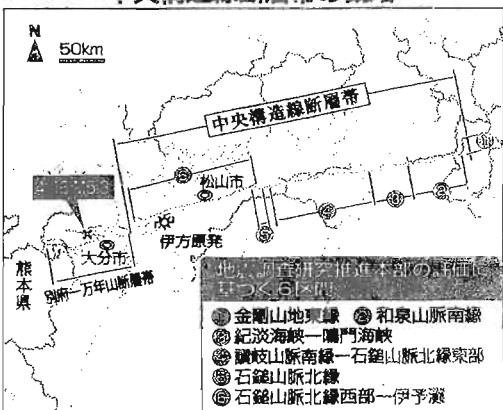
「砥部町の衝上(しゅうじょう)断層は元にする人が多けれど、重信断層はあまり気にさせないですね」。4月下旬、愛媛大の高橋浩一郎(たかはし ひろいち)准教授(構造地質学)は東温市の自宅で、東温市西部を中心に走る活断層の位置と特徴を説明して示しながら切り出した。

1 県内活動の可能性

政府の地震調査研究推進本部によると、中央構造線断層帯は近畿地方の金剛山地域から和泉山脈南縁、淡路島南部海域を経て四国北部を東西に横断し伊予灘に達する活断層帯。全長は約360キロに及ぶ。活断層が耳目を集めたのは1995年の阪神・淡路大震災だ。住民の不安が高まる中、愛媛県は中央構造線断層帯に由来する地震のリスクを明らかにしようと、96〜99年度にかけ県内の主要な5つの活断層を調査した。調査に携わった高橋氏によると、中央構造線断層帯で発生した地震に関する文献はないという。そのため活断層に海を挟んで地震を連続し年代を測定するトレンチ調査といった手法を活用。過去の地震や規模を推定して公表し「活動は数千年に1回」としている。

3区間 M7.0以上発生も

中央構造線断層帯の概略



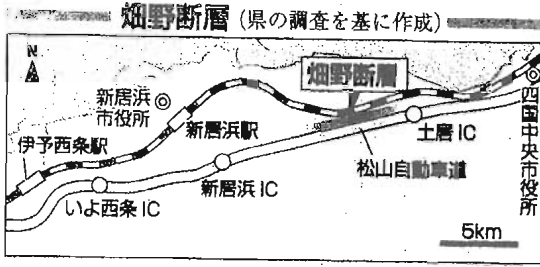
一方、中央構造線断層帯周辺では4200年前の1606年、県内でマグニチュード(M)7.0の震長伊予地震が発生。3日後に大分県の別府湾を震源とする震長震後地震、その翌日に兵庫原などで震長伏見地震と連続した。中央構造線断層帯が動いた可能性を指摘する専門家もいる。

2011年3月の東日本大震災直前の2月には、地震調査研究推進本部が中央構造線断層帯の長期評価を公表。過去の活動時期から断層帯を6つの区間に分け、地震の規模や将来の活動について検証している。このうち愛媛県は3区間

が関係。讃岐山脈南縁から石鎚山脈北縁東部の石鎚断層帯までの区間はM8.0以上の地震が発生すると推定されるなど、3区間ともM7.0以上となる可能性を明記している。

中央構造線断層帯に関しては現時点の知見を基に防災・減災対策に取り組みたいとの研究結果や資料が公表されているが、日常生活で住民が活断層を認識する場面は少ない。高橋氏は「住んでいる地域の地震や活断層を知っておくことが重要だ」と訴えている。

(坂和輝)



「これが畑野断層がずれた証拠です」。県総合科学博物館(新居浜市)の山根勝枝学芸員(44)「地学」が説明してくれた。四国中央市土居町上野にある丘陵の谷に沿って流れる横谷川。川が「コ」の字のように不

定元の活断層は今

「検証・中央構造線断層帯

2 ずれ明瞭な畑野(四中央)

自然に曲がっている。畑野断層の活動で、流れが交わってしまったという。山根学芸員や県の調査などによると、東予では中央構造線にはほぼ沿う形で松山自動車道が走っている。畑野断層はその約500m北側を東西に約8km並走する。

中央構造線断層帯の中でも、断層のずれによって引き起こされた川や谷、尾根の屈曲が明瞭に分かるのが畑野断層の特徴という。上野地区付近の航空写真をみると、畑野断層を境に谷や尾根が約200mずれているのがよりはっきりと確認できる。

同市土居町出身で、愛媛大の高橋治郎名誉教授(構造地質学)は「1回のずれで最大で10mくらい。少な

川が屈曲 1回最大10m

くとも20回は断層が動いたと考えられる」と指摘する。政府の地震調査研究推進本部の報告(2011年)では、愛媛県などが行ったトレンチ調査の結果に基づき、畑野断層の最新の活動時期を9〜15世紀以前、または9〜17世紀以前と判断している。

県の地震被害想定では、中央構造線断層帯のうち畑野断層を含む徳島県から西条市に延びる約130



航空写真で、畑野断層の活動で谷や尾根がずれた地点を示す県総合科学博物館の山根勝枝学芸員=4月28日午後、新居浜市大生院(画像を一部加工しています)

kmの「讃岐山脈南縁-石鎚山脈北縁東部」が動くこと、四国中央市や新居浜市で最大で震度7の地震が発生、県内の犠牲者数は最大2374人になるとしている。30年以内の発生確率はほぼ0.0〜0.3%という。

県内各地で防災の講演をする高橋教授は「地域を知ることが防災の第一歩」と強調。防災意識を高めるために、自分たちが暮らす地域にどういった活断層があり、どんな地震を経験してきたかを知ることが重要性を指摘する。

「自分の地域にはあまり関係がない」との声も聞かれるが、高橋教授は「活断層が動くこと、国道11号沿いの町中の家も大揺れになる」とみる。

四国中央市は「熊本地震後、活断層の問い合わせはない」と説明。防災マップに一部の断層帯を示し警告しているものの、直下型地震への詳しい啓発や対策には至っていないとし、「南海トラフ巨大地震を含め、家具の固定や住宅の耐震化避難の在り方など、地震全般への備えの必要性を周知したい」としている。

(丸岡裕美)

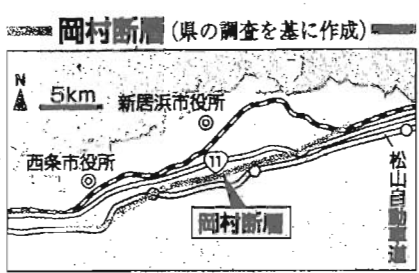
足元の活断層は今

「検証・中央構造線断層帯」

4月下旬、新居浜市西部の自治会館から丘陵を上ること数分、突然目の前が開け、県総合科学博物館(新居浜市)の山根勝枝学芸員(44)「地学」が指さした。「あれが中央構造線活断層系『岡村断層』の活動によって形成された崖です」。500mほど先の平野に、川の土手のように盛り上がった「断層崖(がい)」がほぼ一直線に延び、周囲には住宅が並んでいる。山根学芸員は声を落とした。「断層上の家は揺れ対策でこうではない。地面が割れて倒壊するだろう」

2001年公表の県活断層調査報告書によると、岡村断層は西条市中央部から四国中央市西部まで続く長さ約30kmの活断層と推定されている。最新の活動時期は885〜1235年。活動間隔は1730〜2229

3 長さ約30kmの岡村断層帯



0年(こと)で、マグニチュード(M)7.5クラスが想定されている。現在も断層活動で変位した地形が見て取れるため、山根学芸員は約15年前から自然観察会「断層めぐり」を開き、住民に自然の脅威を伝えている。別の場所に足を運ぶと、田畑に囲まれた中に高低差約8mの断層崖が姿を現す。ただの坂にしか見えな

崖8mに活動の爪痕残る



岡村断層の活動ですれ、約8mの高低差が生じた「断層崖」
＝4月28日、新居浜市西部

「熊本地震で地表に現れた断層も千年もたつと埋め戻りますよね。それでもこの崖が残っているということ。は、何回も断層の活動があったことを示しています」と山根学芸員。

これまでの調査によると、岡村断層は少なくとも3回動いた履歴を確認することができるという。存在は知っていても身近ではなかった中央構造線断層帯だ

「だが、地形を委ねるほど断層の脅威が繰り返されたことを初めて実感した。活断層が足元を走っていることを住民は認識しているのだろうか。犬と散歩していた男性(82)に尋ねると「知っている。地震である山は動いたらしい」との答えが返ってきた。一方でせ

「一方でせ」
「犬と散歩して引越すわけにもいかない。地震が起きたら起きたで仕方がない」と、対策が困難な事実を受け入れるしかない思いを語った。

新居浜市役所で防災マップを手すると、中央構造線断層帯の位置が描かれていた。熊本地震後、防災安全課には活断層の場所を覚えてほしいとの問い合わせが増えており、同課職員は「運動を心配しているのだから」とみる。防災意識の高まりは歓迎しつつも「活断層の案内板を設置するなどして恐怖心をおおるわけにもいかず、どう対応すればいいのか」と戸惑いを隠さない。

県は2013年、「石鎚山脈北縁」の名称で岡村断層の被害想定を公表。新居浜市で最大震度7、県全体の死者は1491人と推計している。山根学芸員は「数千年に1度といっても、断層のひずみはたまり続けており、地震はいつかは起きる」と力説。身近な活断層の場所を知り、住宅の耐震化や家具固定などでできる防災対策を取るよう呼び掛ける。(高田未来)

足元の活動断層は今

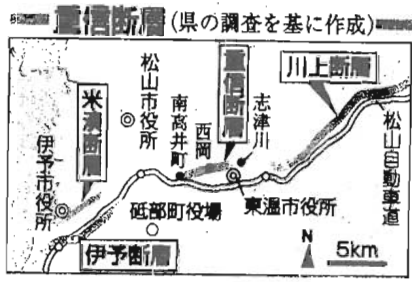
「検証・中央構造線断層帯

麦畑が広がり、民家が連なる。愛媛大の高橋治郎名教授(構造地質学)は、松山市東部と東温市にまたがる県内有数の麦作地帯を見つめ、言った。「この辺りは重信断層が走っている。もし地震が起きれば、付近は壊滅状態になる」

重信断層は、松山市高井町から東温市志津川までの約6キロにわたって存在する中央構造線断層帯の活断層。政府の地震調査研究推進本部の調査(2011年)などによると、最新の活動は10世紀以後と推定され、それ以前にも少なくとも1回の活動があった可能性が指摘されている。

「重信断層は」長さばかりだが、地震が発生すれば被害は甚大になる。すべて

4 生活圏広がる重信(東温・松山)



に高橋氏の言葉の意味が理解できた。松山市のベッドタウンで、麦畑の周りに住宅が並び、大型商業施設や病院もある。生活圏のすくそそばを活動断層が走っている事実をまよまよと突き付けられた。

東温市西岡の県道沿いに移動した。なだらかな段々

暮らしのそば 潜む段差

畑が広がる。「活断層の特徴である連続した直線的な構造を示している」(高橋氏)。活断層に沿い、上段と下段の麦畑を隔てる石垣が東西に真っすく延びる。南側が低くなる重信断層の特徴的な地形が、暮らしに溶け込んでいた。

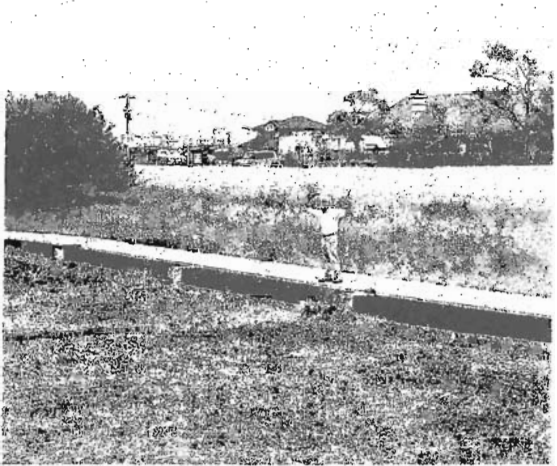
重信断層の近くに住む主婦山本良子さん(50)に声を掛けた。活断層のことを告げると、不安そうに言った。「こんな近くにあるなんて知らなかった。地震が起きたらどうなるのか…。地震保険の加入も真剣に考えないといけない」

県の地震被害想定調査では県内の中央構造線断層帯を三つに分け、重信断層は西条市から伊方町の佐田岬半島にかけて走る断層帯に含まれる。

想定では、この断層帯で地震が発生した場合、西条市と伊方町の一部で最大震度7を観測、県内の犠牲者と建物全壊棟は最大で12

02人、6万1766棟に上る。山間部を中心に土砂災害が起き、沿岸部では液状化の危険もあるとしている。30年以内の発生確率は0.003%だが、国内の主な活断層の中では地震発生の可能性がやや高いグループに属するという。

高橋氏は、活断層はいつ活動してもおかしくないとしつつ「四国の中央構造線断層帯では数十年間微小地



重信断層の特徴的な地形を説明する高橋治郎氏。後ろの麦畑と道路の間の段差は、重信断層の活動で生じた。4月下旬、松山市南梅本町

震すらなく、今すぐに直下型地震が発生する可能性は低い」と分析する。

東温市は、市内の活断層を防災マップに記載し住民に周知しているが、活断層が震源の地震に特化した対策はしていないという。市危機管理課は「引き続き、南海トラフ巨大地震をはじめめとする地震全般の訓練に取り組んでいく」と話す。

(伊藤愛)

足元の活動帯は今

「検証・中央構造線断層帯

熊本、大分両県で相次ぐ地震が中央構造線断層帯と連動する可能性は、

複数の専門家は、中央構造線断層帯で1980年代以降、マグニチュード(M)2.0以上の地震がほとんど観測されていないことや、数千年間隔とされるこれまでの活動履歴を根拠に「可能性は低い」との見方を示す。ただ熊本県で震度7を続けて観測するなど想定外の事態は起こり得るとして、一層の防災対策を呼び掛ける。

京都大大学院の平原和朗教授(地震学)によると、中央構造線断層帯では1596年に大分から愛媛、阪神・淡路、京都にかけて大地震が連続した可能性が高いとされる。平原氏は、国や愛媛県による調査で推定された「数千年の発生間隔」

5 熊本地震との連動



に鑑みると、前回の地震から420年しか経過していないため「(連動の)可能性は低い」とみる。愛媛大の高橋治郎名誉教授(構造地震学)は、中国の地震の観測データを論拠として提示。熊本、大分両県で地震を起こした活断層付近では1980〜90年代、M2.0以上の地震が活断層に沿って多発しているが、中央構造線断層帯で

想定外への防災対策を

はほとんど見られなかったとし「心配ない」とする。

ただ、平原氏は熊本地震が中央構造線断層帯に与える影響は「小さいがゼロではない」と考える。別府湾から阿蘇山を経て島原半島(長崎県)に至る別府-島原地帯帯の地震活動が活発化したとみており「(延長線上にある)中央構造線断層帯での地震活動の可能性は高まっているともいえる」と解説。今後の十分な注意を呼び掛ける。

家屋が倒壊し死者が相次いだ熊本地震。愛媛大防災情報研究センターの二神透准教授(防災情報工学)は、熊本県益城(ましき)町で震度7の地震が2回起きた点を従来の研究では理解できない現象とし「強い余震も頻繁にあり特殊だ」と指摘する。

全長約360キロと最大な中央構造線断層帯による地震被害も、想定を超える可能性がある。県地震被害想定調査(2013年12月最終報告)などでは、県内に



熊本地震で1階が押しつぶされた住宅＝4月16日、熊本県益城町(撮影・丸岡裕美)

ある中央構造線断層帯を3区分し、それぞれ単独での地震発生を前提に人的・物的被害を試算した。だが、高橋氏は「便宜的に区分している側面もある」とし、中央構造線断層帯が一体となって連動する地震が起これば、被害は広範囲にわたる恐れがあるとする。中央構造線断層帯だけで

おわり

16年全国地震動予測

南海トラフ付近上昇

今後30年間で 松山44%に 震度6弱以上

政府の地震調査委員会は10日、今後30年間で震度6弱以上の揺れに見舞われる確率を示した「全国地震動予測地図」の2016年版を公開した。南海トラフ地震で影響を受ける静岡県から四国にかけての太平洋側の地域で、前回14年版に比べて確率が上昇、関東地域の一部でも80%超と高い状態を維持した。震度6弱では、耐震性の低い建物が倒壊することがある。

確率が上昇したのは、太平洋側で沈み込むプレート(岩板)に2年の時間経過でひずみが蓄積されたため。ただし、今年1月時点で7・6%と低かった熊本市を含む熊本地方で4月に震度7の地震が2回起こるなど、調査委は「数値が低いから安全だと思つべきではない」としている。

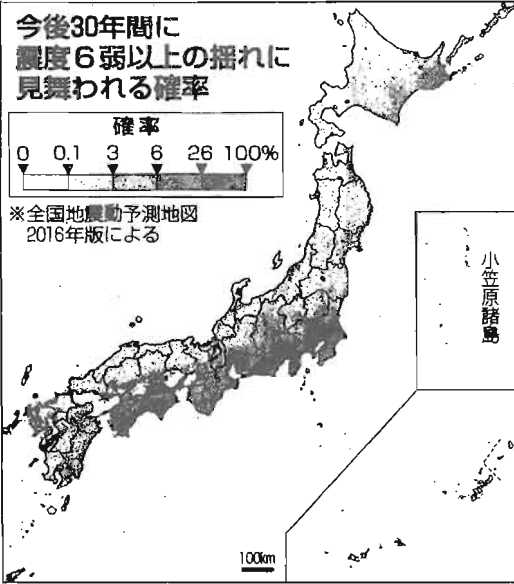
16年版の評価は今年1月1日が基準。4月の熊本大地震の影響は加味されていない。都道府県庁のある市の市役所付近では、太平洋側の静岡市で68%、津市で62%、和歌山市で57%、高知市で73%と、いずれも前回より2割上昇した。

松山市は2割上昇し44%だった。

関東では首都直下地震や、相模湾から房総半島沖に延びる相模トラフで起きる海溝型地震の影響で、水戸市81%、千葉市85%、横浜市81%など、前回並みの高い数値を示した。熊本市は7・6%で前回から0・2ポイント下がるなど、九州北部ではわずかに発生確率が減少していたが、実際に大地震が起きた。調査委は「8%より低いところでも大きな地震が起きた」ということを認識してほしいとしている。

調査委が15年に公表した関東地域の活断層長期評価で、糸魚川-静岡構造線断層帯の予測が見直された結果、前回と比べ、長野県安曇野市で19・1%から29・5%へと最大の上昇幅となり、同県小谷村では16・6%から30・9%に減少した。

最新版は防災科学技術研究所のホームページで公開。住所から発生確率を検索できる。アドレスはhttp://www.j-shis.bosai.go.jp/



全国地震動予測地図 今後30年間で震度6弱以上などの強い地震が起こる確率を全国規模で示した地図。発生間隔の長い内陸の活断層型地震と、プレート(岩板)の沈み込みに伴う海溝型地震を個別に評価した結果を組み合わせ、政府の地震調査委員会が日本全国の地図として作製する。住民の防災意識の向上に役立てるのが目的で、2005年に初めて公表した。11年の東日本大震災を受け計算手法を見直すなど、最新の科学的知見を反映させ、これまで今回を含め9回改訂している。



編集後記

また暑い季節がやってくる
庭のゴーヤがどんどん育っている
ブドウも大きくなった
これで蚊がいなければ最高なのと思うけど
蚊はトンボやコウモリの餌かもしれない
今回また手作業で編集させてもらった
「スキャン」とかいうものがまだ手に負えない
ハサミと糊を使用。 (K. K)

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com